

令和元年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

目指す生徒像	清らかで、清潔感にあふれ、真心をもって人や物事に対し、自ら進んで新しい物事に取り組む生徒
--------	--

重点目標	1 「新南8C」育成を意識した授業・特別活動の推進	達成度	A	達成できた	A：十分評価できる【A＝4.3以上】 B：まずまず評価できる【B＝4.0以上】 C：一部見直しが必要【C＝3.5以上】 D：根本的な見直しが必要【D＝3.5未満】
	2 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善		B	ほぼ達成できた	
	3 心身の健康と安心・安全教育の充実		C	あまり達成できなかった	
	4 学習指導要領改訂に伴う教育課程の研究		D	達成できなかった	

自 己 評 価							学校関係者評価	
番号	評価項目	具体的方策	評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	学習指導	(1) 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善（教務課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.8	C	基礎学力の定着を踏まえた授業改善を一層推進するために校内研修が必要と思われる	B	学習指導や評価の仕方について、積極的に学び合う必要がある。
		(2) ICTを効果的に授業に取り入れる方法および教科横断的な授業の研究推進（教務課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.7	C	アクティブラーニングルームを整備し、準備等に時間をかけず取り組みやすい教室を整備する。	C	職員研修の必要性あり。 設備的な課題を解決しないと困難。
2	進路指導	(1) 自己理解を深め、自己の能力や適性の伸長に努める姿勢の育成（進路課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.7	C	キャリアパスポートを積極的に活用し、進路課と学年の連携を強化し、指導に当たる。	B	努力と成果は伺われる。面談等で自覚を促してほしい。生徒の意欲醸成が必要。
		(2) 地域の産・学・官等、各方面との連携によるキャリア教育の展開（進路課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.8	C	外部機関からの協力を仰ぎ、生徒への視野を広げる活動を積極的に展開する。	C	地元企業や自治体との連携をさらに深めてほしい。ジモト大学との連携強化。
3	生徒指導	(1) 健康・学校生活・交通安全・情報等に関する自己管理意識の育成（生徒保健課）	5段階自己評価の平均4.0以上	4.0	B	欠席者数の減少に向けて、健康管理とともに生活リズムの確立を目指す。	A	生徒の充実感が高く、開かれた校風が浸透しているもので、継続してほしい。
		(2) 柔軟かつ節度ある学校生活を営む豊かな人間関係の構築（生徒保健課）	5段階自己評価の平均4.0以上	4.1	B	時間管理を意識させ、望ましい人間関係を構築するためのHRや行事などに取り組ませる。	B	現状は良好。様々な社会体験をカリキュラムに組み込むなど継続を期待。
		(3) 「いじめ防止基本方針」に基づいた取り組みの徹底強化および相談活動の重視による早期対応の徹底（生徒保健課）	5段階自己評価の平均4.0以上	4.2	B	アンケートに頼らず、日常の変化を逃さない職員の意識を高め、未然防止活動を強化する。	B	今後も全職員の意識を高めるとともに、生徒へ語り掛け声を聴いていくべき。
4	魅力・活力あふれ開かれた学校づくり及びキャンパス制	(1) 家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進と生徒・保護者へのガイダンス機能を効果的に果たす情報発信（総務課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.7	C	PTA活動の内容を見直し、保護者との協力体制をより図る。HPを一層活用し、情報発信に努める。	C	先生方の評価基準が高いものと考えているが、保護者の望むものにマッチした情報発信を引き続きお願いしたい。
		(2) 金山校とのキャンパス制の内容の充実（キャンパス制運営委員会）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.5	C	学校規模に応じたキャンパス制事業を計画し、生徒の刺激となる活動を継続していく。	B	両校より課題や希望を出し合って、可能な範囲で連携充実をさせていくしかないのでは。
		(3) 1学級減の施行に伴う課題への具体的対応（各課）	5段階自己評価の平均4.0以上	3.2	D	完成年度として、新たな課題が浮き彫りになり、更なる業務改善と組織改革が必要である。	C	教員の一人当たりの負担増となっているものと思うので、関係者の連携・協調の深度化を願う。

学校関係者評価基準	A：十分評価できる B：まずまず評価できる C：一部見直しが必要である D：根本的な見直しが必要である ①評価指標（自己評価の平均4.0）及び評価基準（A＝4.3以上、B＝4.0以上、C＝3.5以上、D＝3.5未満）
-----------	---

学校関係者評価を踏まえた改善点等	小規模校としての課題が山積しているが、教育改革への対応とともに、多様な進路希望の実現と、生徒の健全な成長に向けた教育活動を推進するためには、効率よく教員を配置し、業務内容の見直しを図る必要がある。基礎学力向上を目指し、校内研修を充実するとともに、新学習指導要領への対応とキャリア教育・進路指導の充実を目指した、学習指導の在り方を全職員で研修する必要がある。 学校生活に対する生徒・保護者の満足度は概ね良好であるが、より学校生活全体を通じた資質・能力（新南8C）の更なる伸長に取組む具体的な方策を構築することが求められる。 働き方改革の取組と教育活動の充実を図るとともに、生徒の成長をサポートできる体制づくりが急務であり、生徒自身の学ぶ意欲を育てながら学力向上を目指すキャリア教育の支援体制を再構築する。
------------------	---